算命学中庸

【初年】３４回目

３４回目の授業はこのページからです。

授業科目　　〖人体図のだし方〗

✏ 人体図のだし方

算命学中庸の 参考資料 を 03～07 頁 に掲載してあります。

03 頁 〖**十二支と季節の図**〗は、十二支を春夏秋冬の４季節に分けられます。という意味です。

04 頁 **十二支盤〔十二支の陰陽と季節〕** は、十二支を春夏秋冬の４季節に分けられます。そして、十二支に陰陽を付けることができます。という意味です。

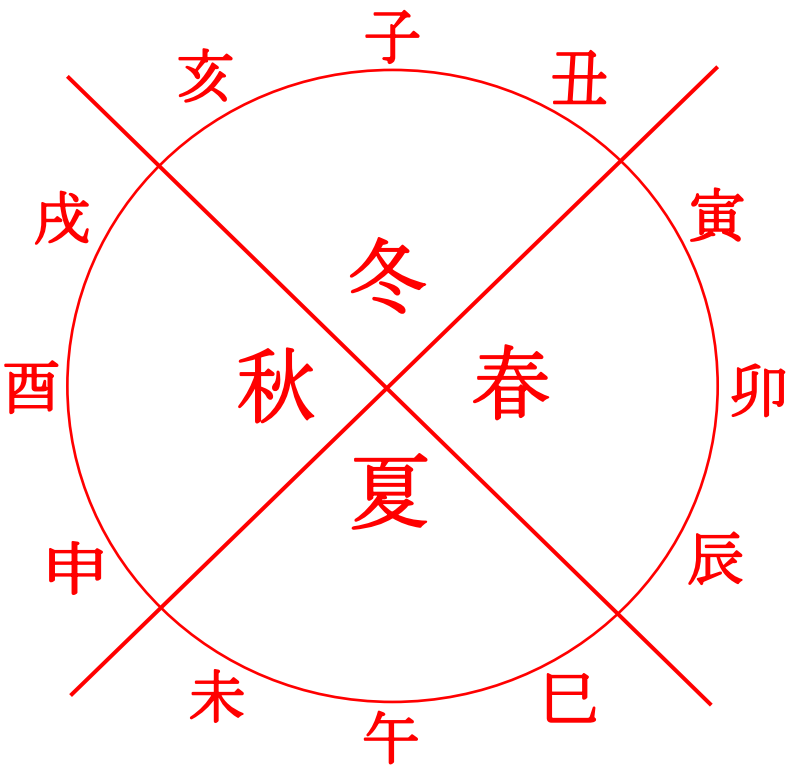
05 頁 **〖十干〗〖十二支〗は、**十干をものにたとえると、「甲木」は樹木・果実です。という意味です。
十二支盤の十二支に（冬至）（春分）（夏至）（秋分）を配置しました。そして、四方向と季節を配置しました。
北の北方水地は水性の十二支、東の東方木地は木性の十二支、南の南方火地は火性の十二支、西の西方金地は金性の十二支、という意味です。

06 頁 11 回目の授業『極微流入・発揮論』です。
宇宙空間を流動する気〔天気〕が、地球に影響を及ぼし〔地気〕を生じ、天気と地気は人間が誕生すると流入して〔人間の気〕となり、それが宿命で、宿命は陰占と陽占であらわされます。

07 頁 日干から見て、『相生』『相剋』『比和』の関係によって出てくる十大主星とその陰陽です。

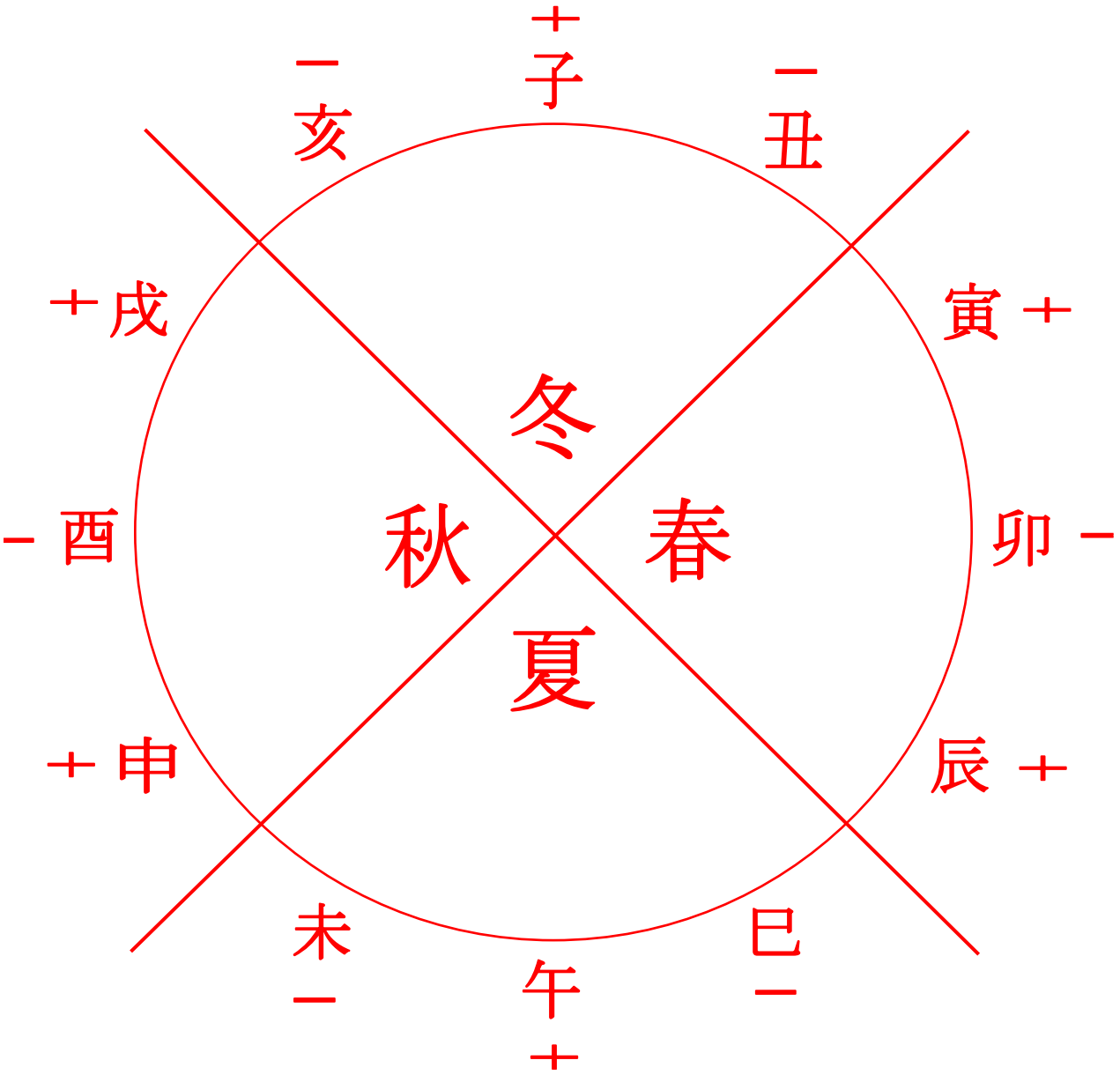
参考資料　算命学中庸

〖 十二支と季節の図 〗



参考資料　算命学中庸

十二支盤〔十二支の陰陽と季節〕



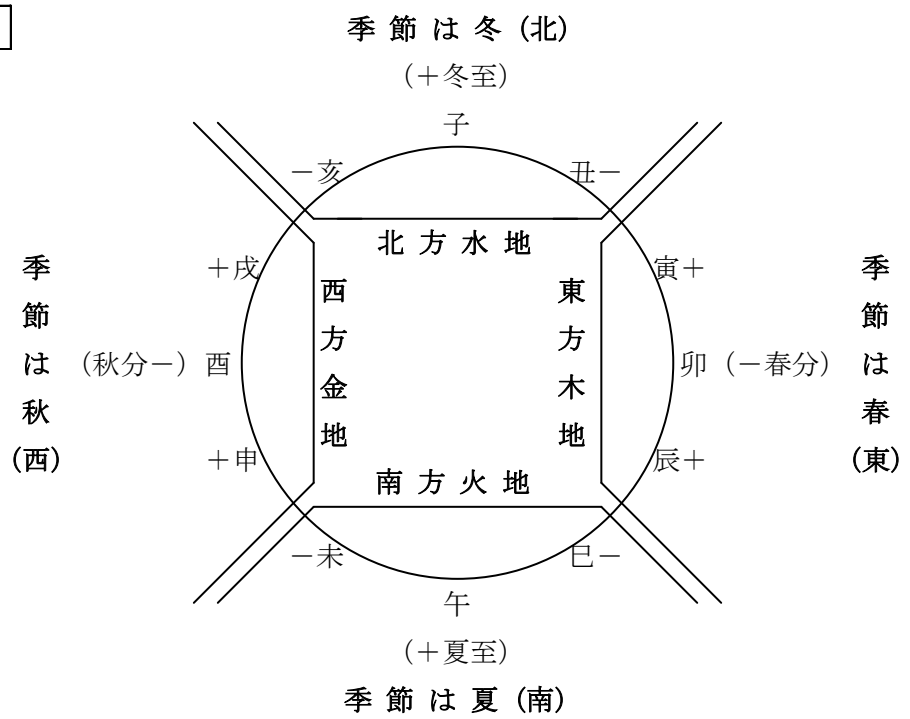
参考資料　算命学中庸

参考資料〖十干〗〖十二支〗　　算命中庸学

十干

干	陰陽／五行	自然界における役割	（気の質）	性別
甲	陽／木性	樹木・果実	（陽の気は大きい）	男性
乙	陰／木性	草花・穀物	（陰の気は小さい）	女性
丙	陽／火性	太陽・陽光	（陽の気は大きい）	男性
丁	陰／火性	月・火炎・灯火	（陰の気は小さい）	女性
戊	陽／土性	山・連山	（陽の気は大きい）	男性
己	陰／土性	平地・田畑	（陰の気は小さい）	女性
庚	陽／金性	鉱物・斧	（陽の気は大きい）	男性
辛	陰／金性	石・宝石	（陰の気は小さい）	女性
壬	陽／水性	海・湖・大河	（陽の気は大きい）	男性
癸	陰／水性	川・雨	（陰の気は小さい）	女性

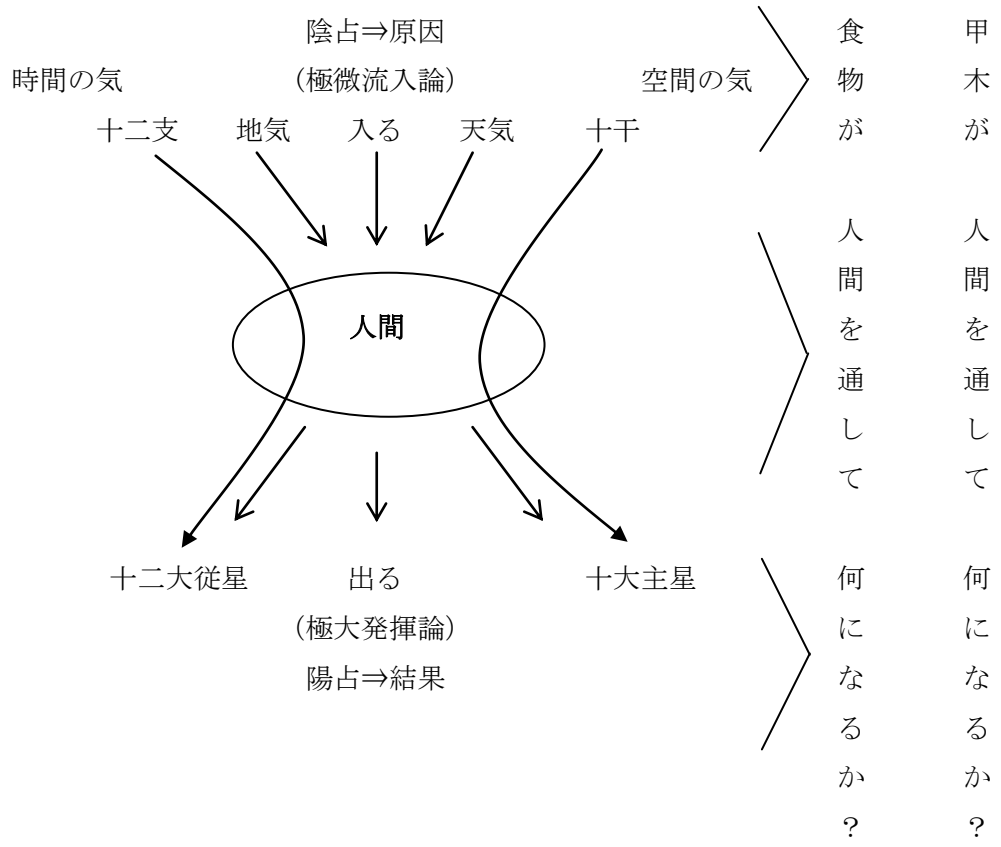
十二支



参考資料　算命学中庸

「陰占」は原因であり、「陽占」は結果です。

宇　宙　空　間



人間を「宇宙の気」が取り巻いていると考えています

☞ 発揮（特性をあらわしだすこと）

参考資料　算命学中庸

『十大主星』相生・相剋・比和との関係

〖相生・相剋・比和〗

日干が生じる	鳳閣星	調舒星
日干を生じる（日干が生じられる）	龍高星	玉堂星
日干が剋す	禄存星	司禄星
日干を剋す　（日干が剋される）	車騎星	牽牛星
日干が比和する	貫索星	石門星

〖星の陰陽〗　星には「陰陽」があります。

日干	他の干	十大主星
＋	＋	＋
＋	－	－
－	＋	－
－	－	＋

＋　反発　＋　　－　反発　－

日干が陽で、他の干が陽なら、十大主星は陽星になります。

✏ **ここからは『人体図のだし方』です。**

そろそろ――実践的な占いの観方に入っていきます。

〔十大主星〕の意味合いをつかっていくようになります。

実際にその人物が人体図にどの星と、どの星と、どの星をもっているのか、その星の組み合わせとか、あるいは誰でも十大主星は人体図に五つ出てきますが、その五星を総合的に考えたときに、その人物の宿命はどのような特徴をもっているのか……そのような勉強に入ります。

✑ 最初に人体図をださないといけないのですが、算命学には『陰占の世界』と『陽占の世界』があります。
宿命にも『陰占（いんせん）』と『陽占（ようせん）』があるわけです。

宿命
- **陰占**
- **陽占〔人体図（じんたいず）〕といいます。**

陰占の宿命は、普通に陰占（いんせん）といいます。
陰占といえば、陰占の宿命のことです。

陽占（ようせん）の宿命は、人体図（じんたいず）という場合が多いのです。

陰占の宿命は「十干」と（十二支）で表わされています。
それを宿命（しゅくめい）と呼称（こしょう）しています。
生年月日を「年干支（ねんかんし）」「月干支（げっかんし）」「日干支（にっかんし）」という三つの干支であらわしたのが宿命です。

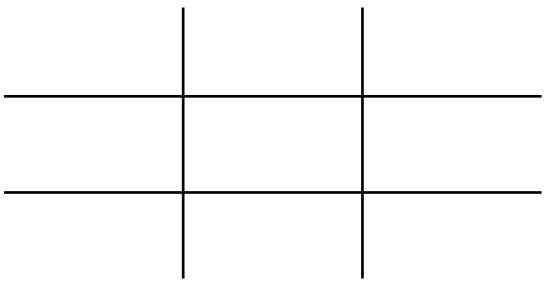
陽占〔人体図〕は〔十大主星（じゅうだいしゅせい）〕と十二大従星（じゅうにだいじゅうせい）という星であらわします。

宿命
- **陰占は十干と十二支であらわす**
- **陽占は十大主星と十二大従星であらわす**

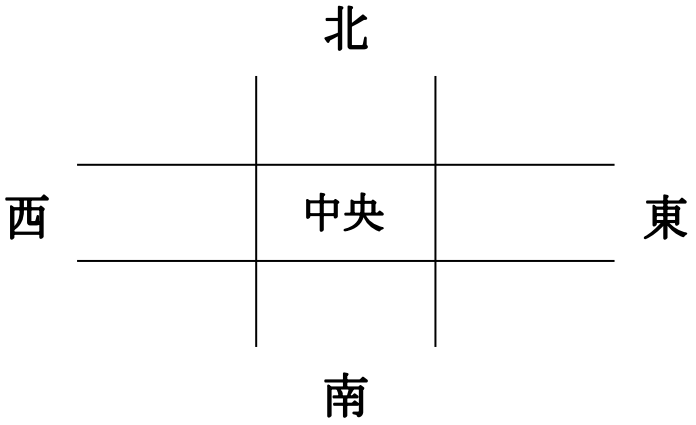
十大主星の基本的な意味合いは、一通りやりましたが、十二大従星はまだやっていませんので、これから勉強していくようになります。

ここでは、人体図のだし方をまなんでいくのですが、
人体図を桝目（ますめ）で書く場合と、人間の姿で書く場合との二つあります。
どちらでも意味はおなじです。
どちらで表してもかまわないわけです。
ただ、いちいち人間のからだの図を描くよりも、四角の格子型の桝目で書くほうが簡単ですから、通常は桝目で書くほうが多いです。
それゆえに、授業でも桝目で書きます。

✍ 人体図を桝目で書くと、下記のようになります。



人体図には、東西南北と中央の「五方向」があります。



上が北で、真ん中は中央、下が南、向かって右は東で、向かって左は西です。

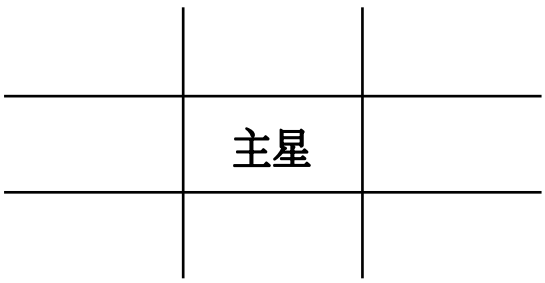
地図の東西南北とおなじですけど、中央があります。

算命学は“人間は自然物”であると考えていますから、人間の宿命も、自然界に当てはめて位置づけています。

十大主星のなかで、五星が人体図の場所に載ります。

五星が載る各場所には、名前がついています。

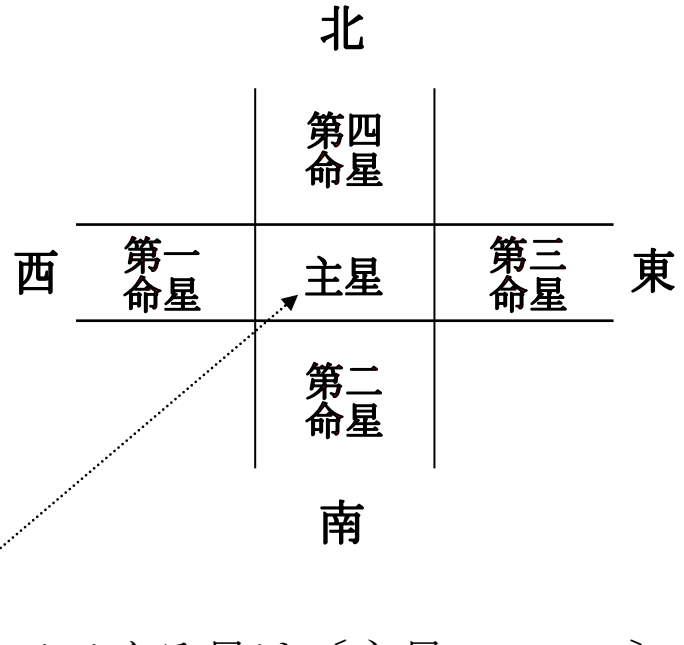
人体図の中央の場所に載る星を〔主星（しゅせい）〕といいます。



十大主星については勉強しました。

〔たとえば〕鳳閣星が主星にあると、鳳閣星の意味合いが特に強く出ますよ、主星がその人物の本質を表す星ですよ……というふうに、少しだけ説明しましたが、中央の場所に載(の)る星を「主星 しゅせい」といいます。

その主星を囲んでいる４つの場所にも、それぞれ名称が付いています。



中央にでてくる星は〔主星 しゅせい〕

西にでてくる星は〔第一命星 だいいちめいせい〕

南にでてくる星は〔第二命星 だいにめいせい〕

東にでてくる星は〔第三命星 だいさんめいせい〕

北にでてくる星は〔第四命星 だいよんめいせい〕

このように名称ついています。

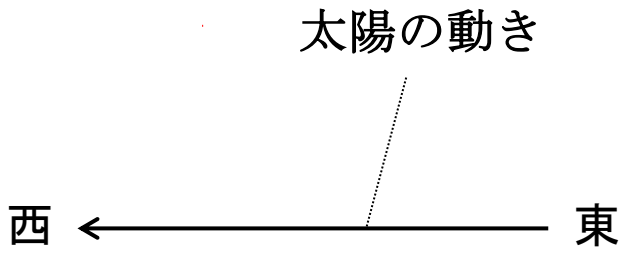
これら五つの場所に、どの星がでてくるのかは、人それぞれで違います。

西の第一命星の場所に〔貫索星〕が載(の)る人、あるいは〔禄存星〕が載る人もいます。

十大主星は 10 通りの星があるわけですから、そのなか星が、五つの場所に載ります。

☞ 人体図には自然界の摂理に則(そく)して、名前が付けられているのです。ここに算命学の考え方が含まれています。

太陽は東から昇って西に沈みますよね。



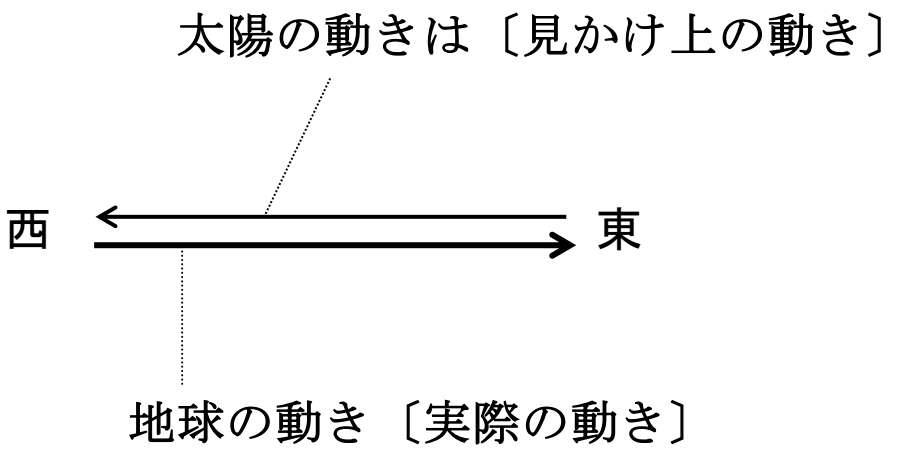
矢印の方向は太陽の動きです。

太陽は毎日、朝、東から昇って西に沈みます。

また、東から昇っては西に沈みます。

太陽は東から、西へうごいて行きます。

しかし、実際には、太陽は動いていないわけです。
太陽が東から昇って、西に沈むように見えるのは――、
地球が西から東へ向かって自転しているために、太陽が
東から西に動いているように見えるだけです。
太陽は実際には東から西に向かって動いていません。
実際に動いているのは地球のほうです。



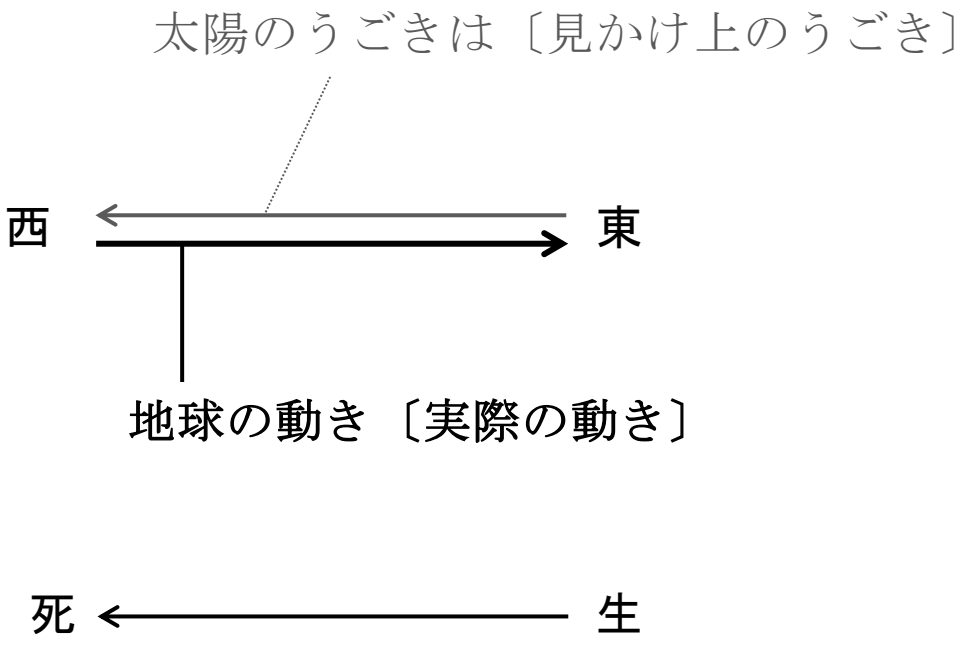
地球が西から、東へ向かって自転しているわけです。
地球が西から、東へ向かって動いていますから、まるで
太陽が東から西へ移動したように見えるだけなのです。
そうしますと――、
太陽の動き〔東から西へ〕は、実際の動きではなくて、
〔見かけ上の動き〕に過ぎないわけです。
地球の動きは〔実際の動き〕です。

☞ 地球は秒速 30 ㎞の速度で公転軌道のうえを動いています。

実際に地球は、西から東へ向かって、動いていますけど太陽は動いていません。

太陽が東から西へと動いているように見えるだけです。

算命学はこの考え方を人生に当て嵌(は)めて、人間は自然物なので、太陽や地球の動きに支配されている……自然物だから自然の法則に支配されていると考えているのです。



西方浄土という言葉がありますが、人間は生まれてから、だんだん成長して、大人になって死んでいきます。

少し付け加えますと：

人間が生まれたときは、まだ赤ん坊なので小さくて弱いです。

三歳、四歳、五歳と、歳(とし)を重ねる毎(ごと)にだんだん成長して、心身ともに大人になって、たくましくなり、強くなって行きます。

最初は弱くて、段々、段々と強くなって、大人としての人生の頂点を過ぎると、今度は逆に、弱くなって晩年期の最後には死んで行きます。

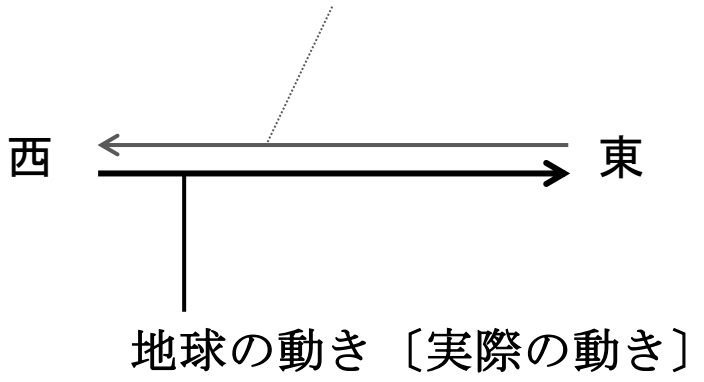
太陽の輝きはそれとおなじだと考えたのです。

太陽も朝日が東から昇ったときは、まだそれほど強烈な陽射しを発していません。暑さもそれほどでもないのですが、だんだんお昼の 12 時ちかくなって来ると、陽射しはどんどん強くなって、温度も上がって来ます。

そしてまた昼が過ぎて夕方になると、だんだんと陽光が傾いて、少しずつ弱くなって西へ沈みます。

このような太陽の姿は、まるで人間の一生とおなじではないか……という考え方をしたのです。

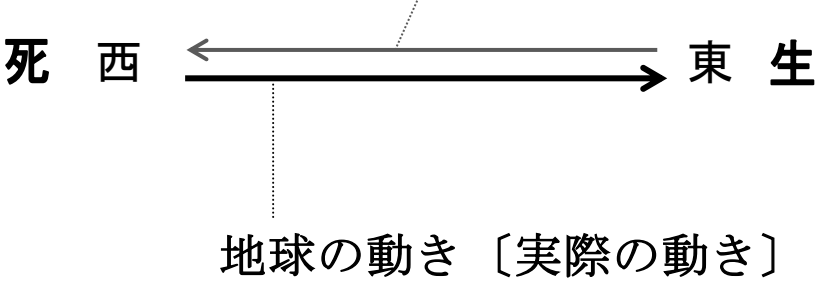
太陽のうごきは〔見かけ上のうごき〕



……太陽が東から、昇って西へ沈んで行くという姿は、そのように見えるだけであって、太陽は動いていなくて、実際に動いているのは地球だということでした。

だとするならば……人間の実際の死は、太陽の姿とおなじだと、算命学は考えているのです。

太陽のうごきとおなじ



人間の生死は太陽の姿とおなじ

死 ←———————— 生

人間が生まれてきて、赤ん坊、幼稚園、小学生と、だんだん成長して大人になってきて、20 代・30 代・40 代と年齢を重ねて、晩年になると、今度は少しずつ衰えて、亡くなって行きます。ふつうはそう見えます。

そう見えるのは……そう見えるだけであって、実際には太陽とおなじで、自分自身は“うごいていない”のではないか――死のほうが、自分に向かって、近づいて来ているのではないかという考え方です。

自分はこれから先の将来、どんどん未来に向かって人生を渡っていくように見えるのは、そのように見えるだけであって、人間は未来に向かって進んではいない。
実際には、未来のほうが、自分に向かって近づいて来ているのではないか――こんなふうに考えています。

〔たとえば〕来年は、この仕事をはじめようという目標があったら、「来年に向かって、頑張って行こう」とか、「来年に向かって進んで行こう」とか、そのような人生を送るかも知れないけれど――でもそれは、そのように

見えるだけであって、自分が来年に向かって行くのではないのです。
来年という未来のほうが、自分に向かって、近づいて来ているだけなのではないか……と考えています。

どちらでもおなじかも知れませんが、そういう考え方に則(のっと)って、人体図の西に位置する星を、第一命星と名付けています。
実際の姿とおなじように、未来のほうが、近づいて来ているという位置づけで、西から東へ、第一・第二・第三・第四という名前が付けられているのです。

太陽が東から昇って、南を通って、西へと沈むように見えるのは、そう見えるだけなのです。
実際には、地球が西から南中を通って、東へと円軌道を通って回転しているわけです。

西を第一として、ここから第二、第三、第四という名前が付けられているのは、このような考え方が含まれているからです。

☞ まだ勉強していないのですけど、十二大従星（じゅうにだいじゅうせい）という１２個の従星（じゅうせい）があります。

その場所を人体図に書いておきます。

北

		第四命星	第三従星	
西	第一命星	主星	第三命星	東
	第一従星	第二命星	第二従星	

南

十二大従星も西のほうから――、

第一従星（だいいちじゅうせい）

第二従星（だいにじゅうせい）

第三従星（だいさんじゅうせい）

このように名前が付いています。

✏ **人体図のだし方に入ります。**

人体図のそれぞれの場所には、十大主星（じゅうだいしゅせい）は五星、そして十二大従星（じゅうにだいじゅうせい）は三星でてきます。

星の出し方をまなびます。

➿ 1953 年（昭和 28）2 月 14 日に生まれた人物の宿命を例にして、出し方をやっていきます。

そうしますと……。

昭和28年2月14日の陰占の宿命をまず出しておきます。

年干支	月干支	日干支
癸	甲	丙
巳	寅	申

1953（昭 28）年 2 月 14 日

♪ **宿命をはっきりと声に出して読んでください。練習です。**

必ず、「年干支（ねんかんし）」「月干支（げっかんし）」「日干支（にっかんし）」の順番で読むということはまなびました。

生年月日 ⇒ 1953（昭和28）年2月14日

丙　甲　癸

申　寅　巳

宿命は：

年干支「癸巳」きすいのみび

月干支「甲寅」こうぼくのとらぼく

日干支「丙申」へいかのさるきん

♪♪ 声に出して読みましょう。

年干支・月干支・日干支の順で読みますよ。

ここまでは【初年】１５回目〖宿命の出し方〗の授業で学んでいます。

「ここまでは皆さんが、だしましたよ」という前提で、ここから始めます。

✏ 干支暦（かんしれき）をつかいます。

☞ 干支歴で、この人の生まれ年（どし） 昭和 28 年 を開きます。

昭和２６年（１９５１）辛卯			
月	節入日	節月干支	１日干支
2	5	庚寅	壬申
3	6	辛卯	庚子
4	5	壬辰	辛未
5	6	癸巳	辛丑
6	6	甲午	壬申
7	8	乙未	壬寅
8	8	丙申	癸酉
9	8	丁酉	甲辰
１０	9	戊戌	甲戌
１１	8	己亥	乙巳
１２	8	庚子	乙亥
1(昭 27)	6	辛丑	丙午

昭和２５年（１９５０）庚寅			
月	節入日	節月干支	１日干支
2	4	戊寅	丁卯
3	6	己卯	乙未
4	5	庚辰	丙寅
5	6	辛巳	丙申
6	6	壬午	丁卯
7	8	癸未	丁酉
8	8	甲申	戊辰
9	8	乙酉	己亥
１０	9	丙戌	己巳
１１	8	丁亥	庚子
１２	8	戊子	庚午
1(昭 26)	6	己丑	辛丑

昭和２８年（１９５３）癸巳			
月	節入日	節月干支	１日干支
2	4	甲寅	癸未
3	6	乙卯	辛亥
4	5	丙辰	壬午
5	6	丁巳	壬子
6	6	戊午	癸未
7	7	己未	癸丑
8	8	庚申	甲申
9	8	辛酉	乙卯
１０	8	壬戌	乙酉
１１	8	癸亥	丙辰
１２	7	甲子	丙戌
1(昭 29)	6	乙丑	丁巳

昭和２７年（１９５２）壬辰			
月	節入日	節月干支	１日干支
2 閏	5	壬寅	丁丑
3	6	癸卯	丙午
4	5	甲辰	丁丑
5	5	乙巳	丁未
6	6	丙午	戊寅
7	7	丁未	戊申
8	7	戊申	己卯
9	8	己酉	庚戌
１０	8	庚戌	庚辰
１１	7	辛亥	辛亥
１２	7	壬子	辛巳
1(昭 28)	6	癸丑	壬子

それでは……だし方を箇条書きにします。

ご一緒にやっていきましょう。

✏ 人体図をだすとき（１番目）にやるのは……

（１）節入日から、生れた日までを数える

このことを一番目にやります。

実際にやりましょう。

この人の節入日が、いつなのかを知るには、暦（こよみ）を見ないとわからないわけです。

暦というのは干支暦（かんしれき）のことです。

昭和 28 年の２月の節入日は、干支歴で何日になっていますか？　そう――４日になっています。

２月４日が節入日になっています。

これは干支歴を見ないと、何日なのか……正確には出せないわけです。

昭和 28 年の２月の節入日は 4日 です。

✍ 宿命の余白に 4日 を書き入れるとよいですね。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

丙　甲　癸　　節入り日　４（空白に書きました）

申　寅　巳

節入日は 4 日だと、

空白に書いておくとよいでしょう。

この節入日から生れた日まで、何日あるかを数えます。

節入日の 2 月 4 日から、生れた日の 2 月 14 日まで、何日あるのかを数えます。

このときに〔誕生日も、節入日も〕１日と数えてください。

２月４日、２月５日、２月６日……と数えますよ。

2/4　2/5　2/6　2/7　2/8　2/9　2/10　2/11　2/12　2/13　2/14

この場合だと、11 日ということになります。

丙　甲　癸

申　寅　巳　　2 月 4 日が節入日で 11 日目

どこかに書いておくとよいですね。

1番目は ⇒ １．節入日から、生れた日までを数える

注意事項は〔節入日も、生れた日も、ともに１日として数える〕

2 月 4 日……5 日、6 日と数えて行って、この場合だと、11 日間ということになります。

☛これを単に――2 月 14 日から、2 月 4 日を差し引けば残りは **10 日**だと（14 から 4 を引けば 10 だと）いうように引き算してしまうと、<u>１日違ってきますよ。</u>

１日違ってくると、星も違ってくる可能性がありますので注意してください。

必ず、節入日も、生れた日も、ともに１日と数えてください。そうしないと星が違ってくる可能性があります。

この場合ですと 11 日目 の生まれですよ。

一般に市販されている本で、計算の仕方が間違っている本は多いです。つまり単純に（引き算して）日数を出してしまっているのが多いです。それは昔『泉宗章さん』という女性が書いた算命学の本がベストセラーになったことがあります。そのなかで日数の出し方が１日違っていたのですけど、本がすごく売れて、その出し方が広まってしまったのです。現在（いま）もその出し方をつかい続けている人が、世の中に割といらっしゃいます。ダメですよ。

そして、（２番目）にやるのは……。

（２）その日数を『二十八元表』にあてはめて、二十八元のなかにある〔蔵干（ぞうかん）〕を決定する

節入日から、生れた日までが何日目になるか、この場合なら 11 日目です。
その日数を二十八元表（にじゅうはちげんひょう）に当てはめて、二十八元のなかにある〔蔵干ぞうかん〕を決定します。

〔蔵干〕は二十八元という蔵（くら）のなかにある「十干（じっかん）」の意味です。

二十八元表というのは、今回、初めて出てきたものです。二十八元表は何なのか、あるいはどのように出来たのかということについては、もう少し後で説明致します。

いまは取りあえず、二十八元表の見方、つかい方だけをやります。

☞『二十八元表』は 28 頁と 29 頁をご参照ください。

二十八元表は、左側に十二支が（子・丑・寅・卯・辰）と順番に、縦に並んでいます。そして、一番上の項目は、初元（しょげん）中元（ちゅうげん）本元（ほんげん）となっています。

ここでは、２つの二十八元表をご紹介します。

どちらも正しいですよ。

（28 頁）の二十八元表
（29 頁）の二十八元表
２つの表があります

違いは ⇒ 中元（ちゅうげん）の欄に、加えて記入された数字です。

（記入した数字の違いの意味を考えて頂くと理解が深まるでしょう）

どちらでも、お好きなほうをご利用ください。

二十八元表

支	初　元	中　元	本　元
子			癸　節明まで
丑	癸　9 日	辛　3 日	己　節明まで
寅	戊　7 日	丙　7 日	甲　節明まで
卯			乙　節明まで
辰	乙　9 日	癸　3 日	戊　節明まで
巳	戊　5 日	庚　9 日	丙　節明まで
午		己　19 日	丁　節明まで
未	丁　9 日	乙　3 日	己　節明まで
申	戊　10 日	壬　3 日	庚　節明まで
酉			辛　節明まで
戌	辛　9 日	丁　3 日	戊　節明まで
亥	甲　12 日		壬　節明まで

二十八元表

支	初　元	中　元	本　元
子			癸　節明まで
丑	癸　9日	辛 10−12 3日	己　節明まで
寅	戊　7日	丙 8−14 7日	甲　節明まで
卯			乙　節明まで
辰	乙　9日	癸 10−12 3日	戊　節明まで
巳	戊　5日	庚 6−14 9日	丙　節明まで
午		己　19日	丁　節明まで
未	丁　9日	乙 10−12 3日	己　節明まで
申	戊　10日	壬 11−13 3日	庚　節明まで
酉			辛　節明まで
戌	辛　9日	丁 10−12 3日	戊　節明まで
亥	甲　12日		壬　節明まで

☙ はじめます……。

どこからやってもよいのですけど、年支からやっていきます。

宿命をみると、この人の年干支は「癸巳きすいのみび」ですから、年支に巳火（みび）という十二支があります。

年支に（巳）があります。**わかりやすく（ ）を付けました。**

年支に（巳）があるので、二十八元表で（巳）をみてください。

二十八元表の 支 の行には、上から順番に十二支が書いてあります

（巳）の欄を見ると……、

初元に 戌　５日 と書いてあります。

この意味は、節入日から、５日目までに生れた人は、

〔戊土ぼど〕です。という意味になります。

もう一度いいますと ⇒ 巳の初元のところに、戊５と書いてあります。節入日から（節入り日も含め）５日目までに生れた人は、戊土だということです。

つぎに、巳の中元は 庚　９日 と書いてあります。

節入り日から、最初の５日間に生れた人は〔戊ぼ〕ですけど、つぎの９日間に生れた人は〔庚こう〕です。という意味になります。戊（ぼ）は戊土（ぼど）のことです。庚（こう）は庚金（こうきん）のことです。

✤ 最初の５日間が〔戊土（ぼど）〕です。

✤ つぎの９日間に生れている人は〔庚金（こうきん）〕です。

✤ 最後の本元に **丙　節明まで** と書いてありますが、この意味は **残りは全部　丙へい** になるということです。

ご理解されたとおもいますが、よろしいですね……。

☞ もう一回もうし上げますと、巳の初元に 戊　５日
中元に 庚　９日　本元に 丙　節明まで と書いてあるのは
（巳）という十二支をもっている人は……、
節入日を入れて、５日目までの生まれは〔戊〕です。

つぎの９日間に生れた人は〔庚〕です。

そして、残りは全て〔丙火〕です。という意味なのです。
この人は節入日から 11 日目だったわけです。
どれに該当するのかといえば、中元の 庚　９日 です。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

	丙　甲　癸
	申　寅　巳
初元	戊
中元	庚
本元	丙

2 月 4 日が節入日です。

2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目

年支（巳）の二十八元に入っている〔蔵干ぞうかん〕は――
初元〔戊〕　中元〔庚〕　本元〔丙〕です。

最初ですので、いまの部分を図表しておきます。

西暦	干支歴
２／４	１
５	２
６	３
７	４
８	５
９	６
１０	７
１１	８
１２	９
１３	１０
１４	１１
１５	１２
１６	１３
１７	１４
１８	１５
⋮	⋮

図表に書くと、暦（こよみ）はこのようになっているのです。

この人の誕生日が 2 月 14 日というのは西暦の日付です。

節入日は２月４日です。これも西暦の日付です。

誕生日が２月 14 日ですから、節入日から、１２３４５６と数えていって……11 日目ですよ。といいましたけど、現代は西暦の日付で生年月日を表しています。それゆえに、こういう作業をしなくてはならないわけです。

昔の中国は西暦（せいれき）の暦（こよみ）をつかっていません。そうしますと、２月 14 日が誕生日の人は、もともとは 11 日 に生まれたのです。11 日生まれだったわけです。

おわかりになりますよね。

節入日というのは、その月が始まる日です。つまり、節入日というのは、昔の干支歴でいえば、その月の１日（ついたち）になるのです。その月が始まる日です。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日の場合だと……。

丙　甲　癸

申　寅　巳

２月４日は 寅月 の１日になります。

２月５日は 寅月 の２日になります。

２月 14 日というのは 寅月 の 11 日になります。

二十八元表の（巳）のところに、戊土５日　庚９日　そして、

残りは全部　丙　と書いてあります。これを巳だけ書きますと……

西暦	干支歴	巳	
２／４	１		
５	２	↑	
６	３		
７	４	戊　５日	初元
８	５	↓	
９	６	↑	
１０	７		
１１	８		
１２	９		
１３	１０	庚　９日	中元
１４	１１	↓	
１５	１２		
１６	１３		
１７	１４		
１８	１５	↑	
１９	１６	丙	本元
⋮	⋮	⋮	

☞ **初めは慣れないので面倒に感じますが、慣れれば簡単です。**

巳の初元に 戊 5 と書いてあるのは、干支歴をつかっていた昔の時代は、その月の 5 日 までが〔戊土〕でしたから、そのまま当て嵌めればよかったのです。つまり、節入日から何日目だと、数える必要はなかったわけです。誕生日の日付そのものが、2 月の 14 日生まれの人なら、〔2 月の 11 日生まれ〕というふうになっていたのです。

昔は 戊 5 といえば〔5 日までに生れた人は〕初元 だと、すぐに判ったので、数える必要はなかったのです。

現在は、西暦で生年月日をつかうようになりましたので、節入日から何日目なのか……を数え直さないといけないわけです。

つぎの 9 日間は ⇒ **6 から 14 が中元に書いてある数字です**

6 7 8 9 10 11 12 13 14 **6** から **14** の 9 日間に生れた人は 中元 の〔庚金〕になります。年支(**巳**)は〔庚金(こうきん)〕です。そして、残り全部は〔丙火(へいか)〕ということになります。

このようにして、おなじやり方を、月支の（寅木(とらぼく)）にも、日支の（申金(さるきん)）にもするわけです。➡

☞ 月支（寅（とら））やっていきます。

（寅）の五行は木性なので（寅木 とらぼく）ともいいます。

二十八元表で（寅）をみてください。

（寅）寅をみると、初元は 戊 7 となっています。

中元は 丙 7 です。本元は 甲 節明まで となります。

この人は、2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目 つまり、節入日から 11 日目の生まれですから、中元 丙 の範囲内に生れています。

（寅木）は初元 戊土７ で、中元 丙火７ と書いてありますから、中元 丙火 の範囲内に生れている人は、丙 になります。という意味なのです。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

	丙	甲	癸
	申	寅	巳
初元		戊	戊
中元		丙	庚
本元		甲	丙

2 月 4 日が節入日です。

2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目

☞ 二十八元表でおなじく（申（さる））をみてください。

（申）の五行は木性なので（申金 さるきん）ともいいます。

申金の初元は 戊 10 日 で、中元は 壬 3 日です。

節入日から 11 日目の人なので、ほとんど中元になってしまうわけですけど、これも、中元の３日間の範囲に生れていますから、（申）も中元は 壬水 です。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

	丙	甲	癸	
	申	寅	巳	2 月 4 日が節入日です。
初元	戊	戊	戊	2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目
中元	壬	丙	庚	
本元	庚	甲	丙	二十八元のなかはすべて蔵干

年支（巳） 月支（寅） 日支(申) ３つの十二支を二十八元表でみると、初元／中元／本元という蔵（くら）が存在し、そのなかには十干（じっかん）が入っています。それらの干（かん）を蔵干（ぞうかん）といいます。

（巳）（寅）（申）これら十二支が、初元／中元／本元のなかで、どの範囲に存在するのかを、二十八元表をつかって、まずは決めるのです。ここまで決まれば、あとは割合に簡単です。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

	日干（自分）	月干	年干	日支	月支	年支
	丙	甲	癸	申	寅	巳
	申	寅	巳			
初元	戊	戊	戊			
中元	壬	丙	庚			
本元	庚	甲	丙			

星のだし方：

「日干（にっかん）」は自分自身です。

「日干 自分」から見て、「年干（ねんかん）＝癸」「月干（げっかん）=甲」……

そして、二十八元に基づいて出した蔵干を、それぞれの星になおせばよいのです。

つまり「年干の癸水」「月干の甲木」（年支の巳）（月支の寅）（日支の申）の５つをそれぞれ星になおします。

☞ そうしますと、自分自身は日干の「丙（へい）」です。

「丙」の人が、年干に「癸」をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、月干に「甲」をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、巳の蔵干に〔庚〕をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、寅の蔵干に〔丙〕をもっていると、なんの星になるのか？

「丙」の人が、申の蔵干に〔壬〕をもっていると、なんの星になるのか？

ということになります。

年干は「癸水（きすい）」です

月干は「甲木（こうぼく）」です　　２つの十大主星があります。

そして、年支（巳）　月支（寅）　　日支（申）の二十八元から

でてきた３つの蔵干を星になおします。

年支（巳）の二十八元からでたのは〔庚金（こうきん）〕です。

月支（寅）の二十八元からでたのは〔丙火（へいか）〕です。

日支（申）の二十八元からでたのは〔壬水（じんすい）〕です。

二十八元からでた３つの十大主星

このように、合計で５つの十大主星が出てきます。

✏（三番目）にやるのは……。

（３）日干から、ほかの「５つの干」を見て星になおす

☞ **実際に星になおしていきます。**

最初ですから、わかりやすいように**番号**をつけます。

年干にある場所を①とします。

月干にある場所を②とします。

年支のなかにある〔庚金〕は③です。

月支のなかにある〔丙火〕は④です。

日支のなかの〔壬水〕は⑤です。

つぎのページをみてください ➡

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

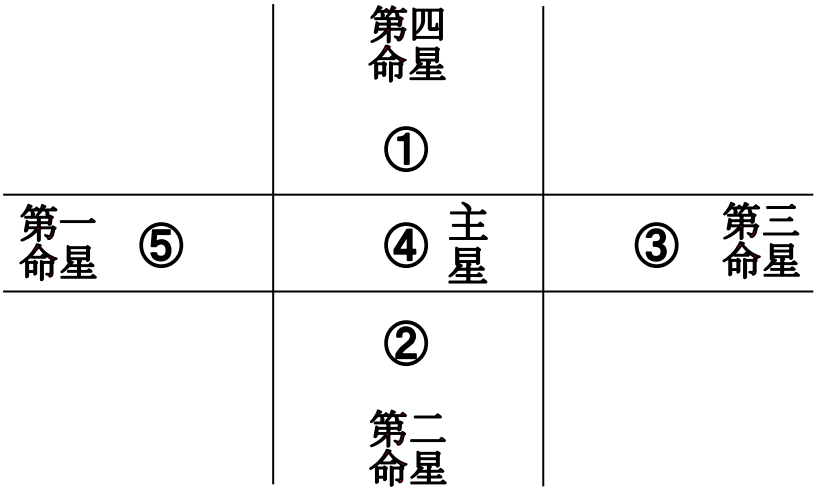
日干（自分）	丙	②甲	①癸
	申	寅	巳
初元	戊	戊	戊
中元	⑤壬	④丙	③庚
本元	庚	甲	丙

2 月 4 日が節入日です。

2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目

① ② ③ ④ ⑤ と番号をつけました。

これらの番号を、人体図になおしたときに、



① ② ③ ④ ⑤ の場所に〔星〕となって出ます。

①と書いた年干「癸」は星になおして、人体図①の場所にでます。

②と書いた月干「甲」は、人体図②の場所にでます。

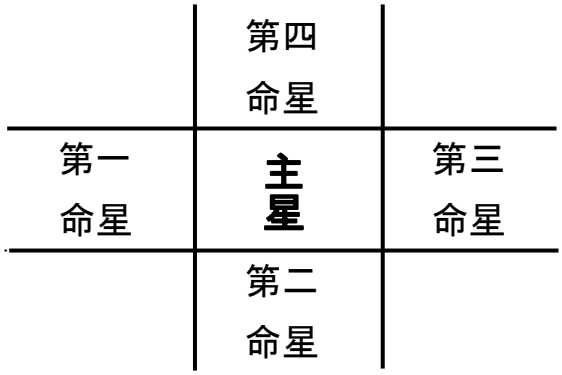
あと、それぞれ ③ ④ ⑤ は、人体図③ ④ ⑤の場所に十大主星になって出てきます。

🔍 43 頁の『十大主星表（じゅうだいしゅせいひょう）』を参照ください。

🔍 44 頁の『十二大従星表（じゅうにだいじゅうせいひょう）』を参照ください。

『十大主星表』

① 日干から年干を見て …… 第四命星
② 日干から月干を見て …… 第二命星
③ 日干から年支の蔵干を見て …… 第三命星
④ 日干から月支の蔵干を見て …… 主星
⑤ 日干から日支の蔵干を見て …… 第一命星

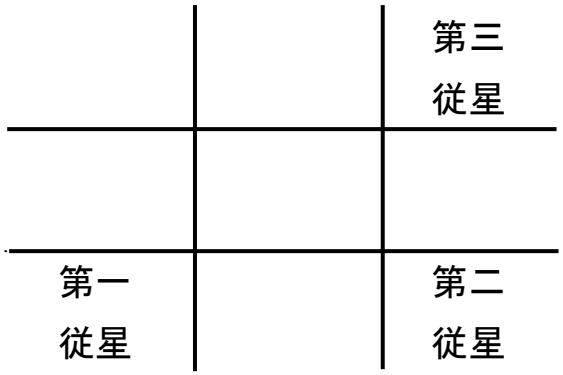


十大主星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干＼星
癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	貫索星
壬	癸	庚	辛	戊	己	丙	丁	甲	乙	石門星
乙	甲	癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	鳳閣星
甲	乙	壬	癸	庚	辛	戊	己	丙	丁	調舒星
丁	丙	乙	甲	癸	壬	辛	庚	己	戊	禄存星
丙	丁	甲	乙	壬	癸	庚	辛	戊	己	司禄星
己	戊	丁	丙	乙	甲	癸	壬	辛	庚	車騎星
戊	己	丙	丁	甲	乙	壬	癸	庚	辛	牽牛星
辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	癸	壬	龍高星
庚	辛	戊	己	丙	丁	甲	乙	壬	癸	玉堂星

『十二大従星表』

① 日干から年支を見て …… 第三従星
② 日干から月支を見て …… 第二従星
③ 日干から日支を見て …… 第一従星



十二大従星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干＼星
巳	午	寅	卯	亥	子	亥	子	申	酉	天報星
辰	未	丑	辰	戌	丑	戌	丑	未	戌	天印星
卯	申	子	巳	酉	寅	酉	寅	午	亥	天貴星
寅	酉	亥	午	申	卯	申	卯	巳	子	天恍星
丑	戌	戌	未	未	辰	未	辰	辰	丑	天南星
子	亥	酉	申	午	巳	午	巳	卯	寅	天禄星
亥	子	申	酉	巳	午	巳	午	寅	卯	天将星
戌	丑	未	戌	辰	未	辰	未	丑	辰	天堂星
酉	寅	午	亥	卯	申	卯	申	子	巳	天胡星
申	卯	巳	子	寅	酉	寅	酉	亥	午	天極星
未	辰	辰	丑	丑	戌	丑	戌	戌	未	天庫星
午	巳	卯	寅	子	亥	子	亥	酉	申	天馳星

☞ 人体図にでてくる十大主星が、何の星になるのかは、「日干」に対して、相生なのか、相剋なのか、比和なのか、その関係によって決まります。

🔍 それは 43 頁の『十大主星表』を見ながらやるほうがよいでしょう。

☞ 十大主星表をつかいます。

日干（自分）	丙	②甲	①癸
	申	寅	巳
初元	戊	戊	戊
中元	⑤壬	④丙	③庚
本元	庚	甲	丙

この人の日干は「丙（へい）」です。自分自身が「丙火（へいか）」です。

『十大主星表』をみます。**丙**の人が、**癸**をもっていると、何の星になるかを見ると〔牽牛星〕になっています。

☞ 日干「丙」から「癸」を見ると〔牽牛星〕です。➡

	第四命星 ①	
第一命星 ⑤	④ 主星	③ 第三命星
	② 第二命星	

☞ 日干「丙」から、年干「癸」を見ると〔牽牛星〕になります。〔牽牛星〕が人体図①の場所にでてきます。

	牽牛星 ①	
⑤	④	③
	②	

以下おなじように、

日干「丙」の人は、今度は月干②に「甲」があります。

十大主星表で、「丙」から「甲」を見ると、龍高星になります。

	牽牛星 ①	
⑤	④	③
	龍高星 ②	

おわかりになりましたでしょうか……。

つぎに「**丙**」の人が、年支の二十八元に〔**庚**〕があると『十大主星表』で何の星になっていますか――？

丙の人が、**庚**をもっていると〔禄存星〕になります。

	牽牛星 ①	
⑤	④	**禄存星 ③**
	龍高星 ②	

禄存星が③の場所に出てきます。

そして **④** はどうでしょう……。

「**丙**」の人が、月支（寅）の二十八元に〔**丙**〕があると何の星になっていますか？

貫索星ですね。　〔貫索星〕が④にきます。

	牽牛星 ①	
⑤	**貫索星 ④**	禄存星 ③
	龍高星 ②	

つまり、主星（真ん中）になります。

最後は、「**丙**」の日支⑤（申）の二十八元に〔**壬**〕がありました。

日干「**丙**」の人が〔**壬**〕をもっていると『十大主星表』で〔車騎星〕になります。

	牽牛星 ①	
車騎星⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
	龍高星 ②	

この人の⑤は〔車騎星〕になります。

このようにして、人体図に十大主星は出てきます。

☞ ここまでを、最初から復習します ➡

☞ ここまでを、最初から復習します

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

	丙	甲	癸
	申	寅	巳
初元	戊	戊	戊
中元	壬	丙	庚
本元	庚	甲	丙

2 月 4 日が節入日です。

2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目

まずは宿命を出します。

宿命をだして、一番最はじめにやることは、節入日から生れた日まで、何日あるのか数えます。

干支歴（かんしれき）を見ると、２月４日が節入日とでていました。

この人が生れた日は、2 月 14 日なので、11 日目ということになります。

この 11 日目というのを、二十八元表に当てはめます。

この人は、**年支に（巳）**をもっていますので、二十八元表を見ると、**（巳）**の初元〔戊〕・中元〔庚〕・本元〔丙〕と入っていて、戊 5 日 つまり５日と書いてあります。

〔戊〕は５日というのは、節入日から、最初の５日間に生れている人は〔戊土（ぼど）〕ですよ。という意味です。
この人は 11 日目です。初元の**戊**（ぼ）は当て嵌（は）まりません。

中元の〔庚〕は 庚 6～14 9 日 と書いてあります。
11 日目は中元〔庚〕の範囲ですから、中元の〔庚〕になります。

おなじく、月支（寅）を見ると、丙 8～14 7 日 と書いてあります。この人は 11 日目の生まれですから、中元〔丙〕の７日間に入ります。
最後の日支（申）も、中元〔壬〕の３日間に入ります。

このようにして、二十八元が全部決まりましたら、後は、『十大主星表』をつかって……、

「日干」から、年干の癸水を見て十大主星をだします。

「日干」から、月干の甲木を見て十大主星をだします。

「日干」から（巳）の二十八元からでた庚金を見て星をだします。

「日干」から（寅）の二十八元からでた丙火を見て星をだします。

「日干」から（申）の二十八元からでた壬水を見て星をだします。

番号がふってあるそれぞれの場所に、十大主星の名称を書いていけばよいわけです。

最初は、やや手間取るかも知れませんが、慣れてくると速くだせるようになります。

ご自分のとか、ご家族とか、お知り合いでも、何人か出してみると良いでしょう。
一度、星を出しておけば、いつでも、それは占いをするときにつかえます。

✏ 十二大従星のだし方もやっておきます。

十二大従星はまだ勉強していませんけど、従星のだし方だけやりましょう。

十二大従星の場合は、節入日 とか、まったく関係ありません。すぐにだせます。

🔍 44 頁の『十二大従星表』をつかってだします。

十二大従星をだすときは「日干」から十二支を見ます。

1953（昭和 28）年 2 月 14 日

日干（自分）	丙	②甲	①癸
	申C	寅B	巳A
初元	戊	戊	戊
中元	⑤壬	④丙	③庚
本元	庚	甲	丙

2 月 4 日が節入日です。

2 月 4 日が節入日を含めて 11 日目

今度は（年支の巳は A）（月支の寅は B）（日支の申は C）と、順に A B C の記号をつけました。 そして人体図 ➡

人体図・十二大従星の場所にも A　B　C とつけました。

北
第四命星

	牽牛星 ①	第三従星 A
西 第一命星 車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③ 第三命星 東
第一従星 C	龍高星 ②	第二従星 B

第二命星
南

そうしますと、A　B　C の場所に〈星〉となって出ます。

🔍『十二大従星表』をみてください。

☞ 日干「丙（へい）」から（巳（み））をみると、〈天禄星 てんろくせい〉と記載されています。

（巳）は年支（ねんし）であり、人体図の場所は A ですから、そこに〈天禄星〉と書きます。**A の場所は〈天禄星〉です。**

	牽牛星 ①	天禄星 A
車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
C	龍高星 ②	B

☞ 日干「丙（へい）」から（寅（とら））をみると〈天貴星 てんきせい〉と記載されています。

（寅）は月支（げっし）であり、人体図の場所は B ですから、そこに〈天貴星〉と書きます。**B の場所は〈天貴星〉です。**

	牽牛星 ①	天禄星 A
車騎星 ⑤	貫索星 ④	禄存星 ③
C	龍高星 ②	**天貴星 B**

☞ 最後――日干「丙（へい）」から（申（さる））をみると〈天胡星（てんこせい）〉と記載されています。

正式名称は天胡星（てんこせい）で、通常は（てんゆめせい）といいます。

（申）は日支（にっし）であり、人体図の場所は C ですから、そこに〈天胡星（てんゆめせい）〉と書きます。**C の場所は〈天胡星〉です。**

	牽牛星 ①	**天禄星 A**
車騎星 ⑤	**貫索星 ④**	**禄存星 ③**
天胡星 C	**龍高星 ②**	**天貴星 B**

✐ **これで人体図は完成しました。**

人体図のだし方は以上です。

最初は戸惑うこともあるかとおもいます。

何人か練習してだしてみると、割とスラスラだせるようになります。

ぜひ、練習してください。

【初年】３４回目〖人体図のだし方〗 終わります

つぎの授業 ⇒【初年】３５回目〖人体図純濁法〗